

NOW IS.

いま
宮城は現在も
いま
現実に
立ち向かう。

2019.2.11

Vol.

34

February, 2019

ナウイズ
毎月11日発行



仙台89ERS

志村雄彦

in 南三陸町

あの日を経験した 仙台89ERSとして この地でできること。



住民を笑顔にし、
交流を深めるイベントを。

プロバスケットボールチーム「仙台89ERS」にとって南三陸町は、第2のホームグラウンドにも等しい場所です。2011年から毎年オフシーズンに訪れ、プレシーズンゲームや子どもたちに向けたスクールなどを行っています。2018年には6日間にわたり「トレーニングキャンプ2018 in南三陸」を開催しました。僕個人も小さい時から両親と南三陸を訪れていました。だから、チームとしてここに関わるのはとてもうれしい。「仙台89ERS」でゼネラルマネージャーを務める志村雄彦さんは、まるで地元に戻ってきたようなリラックスした表情でその話をします。

最初に訪れたのは、合格祈願・復興祈願キャラクター「オクトパス君」のオフィシャルグッズを制作している「南三陸復興ダコ」の「YES工房」。オクトパス君の記念写真を見ながら「この試合、覚



YES工房 木造の廃校舎を活用した工房は、南三陸を見下ろす丘の上にあります。

仙台89ERSフロント 志村雄彦さんと 第2のホーム、南三陸へ。 震災がつけなげた縁を巡る

えています。南三陸でやる試合は、なぜか印象深いゲームになるんですよ」と志村さん。熱戦でしたね」と頷くのは工房の大森丈広会長です。廃校舎を利用したYES工房。1階は売店と工房として、2階の広い教室はワークショップを行う場として使われています。実は南三陸では昔から養蚕が盛んですが、ここではマユをイベントしたりするマユ細工体験ができます。また、南



YES工房で木工体験 間伐材を小刀で削ってスプーンの柄をつくる体験にハマる志村さん。「小刀を使って何かをつくる経験は、災害の時に役立つと思います」と大森さん。

三陸は杉の産地としても有名なんですが、間伐材を利用した木工体験などもできるんですよ。隠れた名産が多いんですよ」と大森さん。

ん。仙台89ERSとコラボしてグッズをつくったこともあるという話を聞きながら「いろいろアイデアが湧きますね」と志村さん。「こういう産物の話を聞きながら、ここでファンと選手との交流イベントをできれば楽しそうですね」。

震災は続いている。
そのことを伝えたい。

昼食は「季節料理志のや」。2018年のトレーニングキャンプで選手の昼食の会場となったお店です。「いらっしやい」と親し気に声をかけるのは、店主の高橋修さん。選手の大きさにびっくりしたなあ。うちの玄関は高さ2m近くあるんですけど、身をかがめてくぐったお客さんは初めて」と当時を振り返ります。お孫さんもバスケットをやっているという高橋さん。「人口1万3000人足らずのこの町にプロのチームが来るなんて、子どもたちにとってはもちろんですが、大人にとっても楽しみ。試合を夢中で見ていると、震災のこともやしたダメージが薄れるような気がするんですよ」。



志のや 「南三陸きりぎりす」を頬張り、目を細める志村さん。「選手時代シーズン中は生ものを控えていたので、食べられるようになってうれしい」。

その後にお会いした、志津川ミニバスケットボールスポーツ少年団の小松祐治監督も高橋さんと同じようなことを言います。「笑っていいんだ、楽しんでいいんだと思います。仙台89ERSが来ると、普段はバスケットに親し

PROFILE

志村 雄彦
しむら たけひこ
1983年宮城県仙台市生まれ。『仙台89ERS』ゼネラルマネージャー。小学3年でバスケットボールを始め、仙台高校を高校日本一、慶應義塾大学をインカレ優勝に導く。東芝に所属後、仙台89ERSに入団。160cmの小さな体を巧みに使い「小さな巨人」「Mr.89ERS」と呼ばれ愛された。2018年選手を引退。現在はフロントスタッフとして、日本一を目指している。



志のや店主の高橋修さんと「スポーツで町を盛り上げたい」と高橋さん。「オール南三陸の食材を選手に出せるように、体制を整えたい」と話します。

南三陸DAY OUT

MINAMISANRIKU

南三陸で
休日を

南三陸町は、海、里、山に囲まれた自然あふれる町。四季折々の海産物が楽しめる「キラキラ丼」をはじめ「さんさん商店街」や「ハマレ歌津」の名物商店街も。ワカメ狩り体験や南三陸里山×里海サイクリング「みなチャリ」など体験も充実しています。



南三陸復興ダコの会
廃校をリノベーションした「YES工房」を拠点として、地元素材を活かしたものづくりを行い、地元住民の「雇用創出」と「交流の場」になっています。「ゆめ多幸鎮オクトパス君」は、「置く」と試験に「パス」できることから、合格祈願グッズとして人気です。

南三陸復興ダコの会 / 入谷YES工房
ひころの里

キラキラ丼
南三陸町のA級グルメ。2月までは、「南三陸キラキラいくら丼」、3月からは「南三陸キラキラ春つけ丼」が食べられます。

志津川湾観光船
リアス式海岸特有の荒々しい岬や島々の景色が楽しめる。ウミネコとふれあえます。予約・受け付けは南三陸ホテル観洋で、宿泊しなくても乗船可能です。

モアイスポット
イースター島から世界で初めて贈呈された本物のモアイ像をはじめ、町内にはモアイスポットが点在。ぜひ、探してみてください。

食べる
買える



神割崎
海に突き出た岩が、波の浸食によって二つに割れ、その間から荒波がしぶきを上げながら押し寄せる様子は圧巻です。さらに、2月中旬と10月下旬の時期にだけ、奇岩の間から昇る朝日が望めます。神の裁きで岩がふたつに割れたという古い伝説もあるそうです。



北の恋人岬
2018年7月、志津川湾を一望できる袖浜地区の岬に、新たな観光スポットが誕生。町民有志がボランティアの協力を得ながら、長年放置されていた雑木林を切り開き整備しました。古代ギリシャ建築の様式を取り入れた石造りの「幸せの鐘」を鳴らしてみてください。



季節料理 志のや
津波で店が全壊しましたが、仮設のさんさん商店街で営業したのち、2017年7月に元の場所に店を再建。季節ごとの旬な魚介や野菜を使用した店主の料理は、地元はもちろん、県外からも足しげく通うファンが多くいます。南三陸の名物、キラキラ丼も提供しています。

取材
こぼれ話
VOICE
FROM
STAFF

南三陸 カメラ部

応援職員の佐藤さんには、NOW IS.取材先の相談やポータルサイトの「いわたかれんの復興フォト」のアテンドなど、数年前から頻繁にお世話になっています。南三陸町を知り尽くしているので、派遣職員と知った時はびっくり！そんな佐藤さんは、カメラ好き数人と「南三陸カメラ部」として、南三陸町の風景をFacebookで公開しています。テーマは「日々の生活の中での美しさ」。NOW IS.スタッフはひっそりと癒されています。



Support Power

PROFILE

南三陸町 企画課
さとう もりちか
佐藤 守謹 さん
長崎県南島原市より南三陸町に派遣

the 応援職員

NOW IS.
南三陸
Minamisanriku



志津川湾に昇る朝日は絶景。無心にシャッターを切り続けます。



日本初！ASC国際認証を取得した南三陸のカキ。この町に来て好きになりました。

「小学生の時に、火山灰で校庭での体育ができない時もありました。幼いながらも自分の身近に災害は起こるんだと認識しましたね。そして、多くの方々に支援してもらったことを覚えていいます」と話す佐藤さんは、2015年4月に長崎県南島原市から派遣職員として南三陸町に来ました。南島原市は、2018年6月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録が記憶に新しいですが、90年代初めに雲仙普賢岳の噴火が起っています。派遣職員に志願したのは、恩返しへの想いもあったそうです。

企画課に配属された当初、まちづくりの指針となる「南三陸町第2次総合計画」策定のための業務や住民アンケート制作で町を廻り住民の話を聞くこと



「笑顔」でいてもらいたい

「私もいつかは南島原市に戻ることにあります。南三陸町の魅力だけではなく、字んだことや感じたことを伝える事も使命だと思っています。震災の記憶を残し、伝えていくことは備えにつながると思っています」と佐藤さんは話してくれました。

「広報南さんりく」のコンセプトは「笑顔」。佐藤さんは、たくさんの方々の笑顔撮影してききました。笑顔が癒やれるように思っていました。ハマレ歌津で「食飲笑うたつがね」を営む店主と話した時でした。「震災でふさぎ込んでいる中で『頑張ろう』と言っても押しつけになってしまふ。『うー』は忘れないけれど、笑った時だけは忘れられる。食べて飲んで笑える店にしたい」という言葉に感銘を受けたと言います。広報紙には、「南三陸町の人たちに笑顔になってもらいたい」という佐藤さんの想いが込められています。

とが多かったそうです。南三陸町のことをもっと知りたいたい、休日は農作業のボランティアも。最低でも2年はいるつもりでしたが、気が付けば今年で4年目です！と佐藤さんは、はにかみながら話します。現在は、同じ企画課の中でも広報紙の発行や町長の記者発表の対応などの広報関連の業務に携わっています。

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします



南三陸福興市
2011年4月29日、東日本大震災の被災者を励まそうと、南三陸町の商店主らが避難所になっている中学校の校庭で開いた「福を興す(おこす)市」。現在は、毎月最終日曜日開催が恒例となりました。全国の商店街仲間が協力して出店し、名産品などを販売しています。
■第87回 牡蠣まつり福興市/日時:2月24日(日)9:00~13:00(予定)
■第88回 牡蠣・わかめまつり/日時:3月24日(日)9:00~13:00(予定)
●場所:南三陸町旭ヶ浦8(志津川仮設魚市場特設会場)
問 090-7077-2550(南三陸福興市事務局)



南三陸町の志津川湾がラムサール条約湿地に登録されました
藻場の多様性や、希少な水鳥の重要な越冬場所であることが評価され、2018年10月18日、国際的に重要な湿地を守る「ラムサール条約」に登録されました。海藻藻場の湿地として国内では初めての登録です。南三陸町は、これからも豊かな自然を生かした持続可能なまちづくりが続けられます。

今月のガイド

南三陸復興ダコの会 / YES工房 会長
おおもり たけひろ
大森 丈広 さん



「頑張っている人に、頑張れ」では無くゆる〜く、そっと応援する。それが合格祈願の縁起ものであるオクトパス君のコンセプトです。YES工房は震災後、地元の人々の雇用と交流の場としてスタートしました。工房は現在、12人のスタッフが「オクトパス君」「まゆ細工」「木工製品」といった南三陸町の資源を活用しています。

「頑張っている人に、頑張れ」ではなくゆる〜く、そっと応援する。それが合格祈願の縁起ものであるオクトパス君のコンセプトです。YES工房は震災後、地元の人々の雇用と交流の場としてスタートしました。工房は現在、12人のスタッフが「オクトパス君」「まゆ細工」「木工製品」といった南三陸町の資源を活用しています。

たグッズの製作・販売を行ったり、モノづくりの体験学習の場として年間1000人以上の方々が訪れる場になっています。「オクトパス君」が南三陸のおみやげとして定着し、全国にファンが増えた今でも、工房に届く手紙には手書きでお返すなど、「気持ち」を大切にしています。

ワインを通じて他産業との 連携による多角的な 産業振興を目指す。



(上)入谷地区に植樹されたシャルドネ。1年目にして小さなブドウを実らせるほどに成長。
(左)今春発売されるプロジェクト初ヴィンテージの白ワイン。
(右)仙台秋保醸造所で研修をしている佐々木さんと正司さん。

まずは南三陸町ならではのワインづくりを確立したい。

南三陸町入谷地区に植樹されたシャルドネは今年で3年目。丘陵地の傾斜畑には、大人の背丈ほどの木が並んでいます。「南三陸ワインプロジェクト」は、2016年に苗木の植樹から始まりました。「南三陸産のブドウを使ったワインの醸造までには、あと1～2年かかります」と佐々木さんは言います。「同じ地域おこし協力隊の正司勇太さんと仙台秋保醸造所の協力で、苗木の栽培とワインの醸造を研修中です。今、プロジェクトは2人で試行錯誤しながら進めています」。

南三陸町では、東日本大震災によって加速した人口減少や少子高齢化で、各産業の担い手不足が課題となっています。特に農業は、耕作放棄地の増加が顕著で、解決につながる取り組みや生産物を見いだそうと、入谷地区の農業法人と地域おこ

し協力隊員が協同し、耕作放棄地でさまざまな作物を栽培しています。

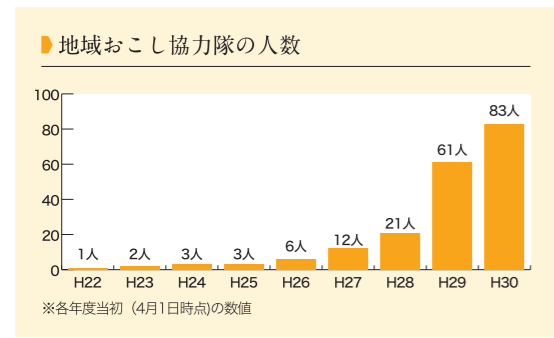
「ブドウの苗100本を寄贈するので、南三陸町で育ててみないか」と提案してくれたのは、仙台秋保醸造所でした。仙台秋保醸造所は、宮城の豊かな食を活かすワインづくりをしているワイナリー。入谷産のリングゴでシードルをつくりたいと声をかけてくれた際に、耕作放棄地での取り組みに賛同。ブドウを育てるなら、ワインも醸造したいと、このプロジェクトがスタートしました。

ワイナリー設立のために地域おこし協力隊として南三陸町に来た佐々木さんは、大手楽器メーカーの新規事業のプロデューサーとして、企画開発やマーケティングを手掛けていました。東日本大震災後、休暇を利用してボランティア活動をしていくうちに、復興の力になれる仕事をしたいと17年務めた会社を辞め、仙台市に移住。伝統工芸の職人との復興プロジェクトで、ワイングラス制

作に携わります。「もともとワインは好きだったのですが、グラスの形の意図やワインの種類などをマーケティングしていくうちに、ワインがより好きになりました。漠然とですが、ワイナリーをやってみたくてと思ったんです」。そんな時、南三陸町のワイナリー設立の人材募集を見つけ、より直接的に沿岸地区の役に立てること、ワイナリー設立という想いを叶えたいと志願しました。

前職で培ってきた新規事業の提案やマーケティングのノウハウはあるものの、ワイナリーに関しては初めての経験ばかり。経営の研修を受け、ワイナリー建設のための会社を設立する準備を進めています。

「まずは、南三陸の海産物に合うワインをつくること。ワインづくりを持続的な産業として発展させて、水産業や飲食店だけでなく、宿泊業や旅行業などさまざまな産業に波及できたらと思っています」。



PROFILE
南三陸ワインプロジェクト
ささき みちひこ
佐々木 道彦 さん

山形県山形市出身。大手楽器メーカーの新規事業開発に携わり、東日本大震災後、仙台市に移住。2019年1月、南三陸地域おこし協力隊に就任。南三陸ワインプロジェクトでワイナリー設立を目指し、奔走中。

NOW IS. 34

発行：2019年2月11日 宮城県震災復興本部(事務局：震災復興推進課)
〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel:022-211-2408 Fax:022-211-2493

「復興情報発信プロジェクト NOW IS」は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。

宮城県 Miyagi Prefectural Government

INFORMATION from MIYAGI

〔宮城県からのお知らせ〕

01 第2回 伝承シンポジウム開催のお知らせ

南海トラフ巨大地震の発生が想定される和歌山で長い間伝承を続けてきた崎山氏を迎え、震災の伝承と防災に関するシンポジウムが3月23日に宮城県庁(仙台市)で開催されます！入場は無料ですが、定員が200名程度となっていますので、お早めにお申し込み下さい。

【日時】平成31年3月23日(土) 13:00～16:45 (受付:12:30～)

【会場】宮城県庁 2階講堂
(宮城県仙台市青葉区本町3-8-1)

【申込方法】
右記QRコードから
Googleフォームにてお申し込みください。



●シンポジウム開催プロジェクト
Mail: sympo2019@311mn.org

02 東日本大震災追悼式典の会場について

平成31年3月11日(みやぎ鎮魂の日)に各地で開催される追悼式典の会場をお知らせします。詳細については各市町へお問い合わせください。

市町名	開催場所	連絡先
仙台市	若林区文化センター	022-214-1145
石巻市	石巻市河北総合センター	0225-95-1111
塩竈市	塩釜ガス体育館	022-355-5007
気仙沼市	気仙沼市総合体育館	0226-22-6600
名取市	名取市文化会館	022-724-7140
多賀城市	多賀城市文化センター	022-368-1141
岩沼市	岩沼市民会館	0223-22-1111
東松島市	東松島市民体育館	0225-82-1111
亘理町	亘理町中央公民館	0223-34-1111
山元町	山元町東日本大震災慰霊碑建立地	0223-37-1111
七ヶ浜町	七ヶ浜国際村	022-357-7437
女川町	女川町総合体育館	0225-54-3131
南三陸町	南三陸町総合体育館(ベイサイドアリーナ)	0226-29-6451
宮城県	○宮城県庁行政舎(献花台、記帳所) ○大河原合同庁舎、北部合同庁舎(献花台、記帳所) ○東京事務所、大阪事務所(記帳所) ○グランディ・21セキスイハイムスーパーアリーナ ※主催：(公財)宮城県スポーツ協会	022-211-2464 022-356-1122

MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから!

<http://www.fukkomiyaagi.jp>

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどを発信します。

最新情報を
ブログで!

今月のブログピックアップ

宮城発！
元気と食の最新情報

一般社団法人 IkiZen

創業100年を超える老舗かまぼこ店の及善商店とかねせんがタッグを組んだベンチャー企業「三陸フィッシュペースト」。常温保存可能な笹かまぼこを開発し、新たな市場開拓を目指します。今回は同社代表取締役社長、及川善弥さんに話を伺いました。

語り部が本当に語りたいこと

宮城県内では、東日本大震災での体験や得られた教訓を多くの人に伝えたいと、語り部活動が各市町で行われています。このブログで、語り部が本当に語りたいことをご紹介します。

名取市関上で語り部活動を続ける「関上震災を伝える会」代表の格井直光さんにインタビューさせていただきました。震災後、地域情報紙「関上復興だより」の立ち上げに携わり、関上のことを見つめ続けてきた格井さんに、語り部活動への想いを伺いました。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧ください。

- いまを発信！復興みやぎ SNS「いまを発信！復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiyaagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。
- NOW IS.メールマガジン NOW IS.の発行日(土日・祝日のときは翌平日)にメールでお知らせします。 [NOW IS.メールマガジン](#) で検索して登録!

宮城の「今」を発信

宮城・福島・岩手 3県ネット報道特別番組

被災地の“今”伝える

東日本大震災の発生から8年となる2019年3月11日、KHB東日本放送はテレビ朝日系列の福島・岩手の放送局と共同で被災地の現状と課題などを探る報道特別番組を放送します。地元局の視点で“被災地の今”を発信します。また、テレビ朝日系列のドキュメンタリー番組「テレメンタリー」では、3月にKHB制作の「プレハブのふるさと(仮)」を放送します。名取市関上で被災したおよそ260人が暮らした仮設住宅「箱塚桜団地」の2552日を振り返り、被災者が抱えた苦しみや葛藤、そしてそれを乗り越えていく“人の強さ”を伝えます。



2019.2.11

Vol.

34

February, 2019

ナウイズ
毎月11日発行

いま
宮城は現在も
いま
現実に
立ち向かう。

NOW IS.

南三陸
ワイン
プロジェクト

佐々木
道彦

目指すは ALL南三陸町産のワイン

南三陸町の北西に位置する入谷地区。里山を見渡せる傾斜畑に、白ワイン用のブドウ品種、シャルドネが約700本植えられています。このブドウ畑は、元は耕作放棄地でした。入谷地区では、耕作放棄地を活用してブドウを栽培し、ワインの醸造を目指す「南三陸ワインプロジェクト」が2016年から進められています。

今年1月、ワイナリーを設立するために、「南三陸町域おこし協力隊」として着任したのが佐々木さんです。「ワインは『人と人』、『人と地域』をつなげる魅力や可能性があります。南三陸町産のワインで、町の特産である海産物とのマリアージュやワインツーリズム、さまざまな産業と連携して、南三陸町の復興に貢献していけたら」。